慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	平良木登規男教授 主要業績
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院法務研究科
Publication year	2007
Jtitle	慶應法学 (Keio law journal). No.7 (2007. 3) ,p.659- 662
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	平良木登規男教授退職記念号 = Essays commemorating the retirement of Professor Hiraragi Tokio presented by his colleagues and former students
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA1203413X-20070315-0659

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

平良木登規男教授　主要業績

１．著書

『刑事控訴審』（成文堂、1990 年 12 月）

『捜査法』（成文堂、初版・1996 年５月、第２版・2000 年４月）

２．論文・判例評釈等

(1) 論文及び分担執筆

「自白の任意性の立証」「自白調書の証拠調べ」『実例法学全集 続刑事訴訟法』（青林書院新社、1980 年１月）

「交通事件における過失について―段階的過失論の批判的検討を中心に」法学研究 62 巻 12 号（1989 年 12 月）

「再審公判手続をめぐる諸問題」『慶應義塾大学法学部法律学科開設 100 年記念論文集 法律学科篇』（慶應通信、1990 年９月）

「没収について―麻薬新条約、とくに利益没収理解のために」法学研究 63 巻 12 号（1990 年 12 月）

「択一的事実認定」『刑事訴訟法の争点（新版）（ジュリスト増刊法律学の争点シリーズ６）』（有斐閣、1991 年６月）

「共謀共同正犯について」『刑事法学の総合的検討 福田平大塚仁博士古稀祝賀』（有斐閣、1993 年 10 月）

「参審制度について―その成立と発展の経緯」法学研究 67 巻７号（1994 年７月）

「参審制度について（続）」法学研究 69 巻２号（1996 年２月）

「共謀共同正犯事例等におけるドイツ判例実務」『西原春夫先生古稀祝賀論文集第２巻』（成文堂、1998 年）

「特定長期事件の長期化（特集 刑事訴訟法 50 年―第２部 刑事訴訟法の現実と

課題)」ジュリスト 1148 号（1999 年 1 月）

「組織犯罪対策における手続法的問題点（特集 刑事訴訟法施行 50 年)」現代刑事法 1 号（1999 年 5 月）

「通信傍受法について―将来発生する犯罪についての捜査との関連において」法学紀要（日本大学）40 号別巻（1999 年 11 月）

「国民の司法参加（特集 司法制度改革の展望―各論)」ジュリスト 1170 号（2000 年 1 月）

「環境分野における刑事規制」『宮澤浩一先生古稀祝賀論文集 第 3 巻 現代社会と刑事法』（成文堂、2000 年 5 月）

「参審制度導入のいくつかの問題点」法曹時報 53 巻 1 、2 号（2001 年 1 、2 月）

「講演 日独の刑事司法」司法研修所論集 105 号（2001 年 3 月）

「迅速な裁判」『刑事訴訟法の争点（第 3 版)（ジュリスト増刊法律学の争点シリーズ 6)』（有斐閣、2002 年 4 月）

「当事者主義と予断排除」『田宮裕博士追悼論集（下)』（信山社、2003 年 3 月）

「罪数論と刑事訴訟法」現代刑事法 63 号（2004 年 7 月）

「刑事裁判の充実・迅速化と新たな争点及び証拠の整理手続創設の意義」現代刑事法 68 号（2004 年 12 月）

(2) 連載

「演習刑事訴訟法」捜査研究 37 巻 9 号（1988 年 9 月）～ 40 巻 6 号（1991 年 6 月）

「刑法アトランダム」警察公論 50 巻 4 号（1995 年 4 月）～ 53 巻 11 号（1998 年 11 月）

「刑事訴訟法アトランダム」警察学論集 53 巻 1 号（2000 年 1 月）～ 55 巻 9 号（2002 年 9 月）

(3) 判例評釈

「胎児性致死について業務上過失致死罪を認めた事例―いわゆる熊本水俣病事

件（昭和 63.2.29 最高三小決）」『昭和 63 年度重要判例解説（ジュリスト臨時増刊 935 号）』（有斐閣、1989 年 6 月）

「覚せい剤使用の罪についての公訴事実の同一性が認められた事例（昭和 63.10.25 最高三小決）（刑事判例研究 493）」警察研究 61 巻 11 号（1990 年 11 月）

「予見可能性の意義（昭和 51.3.18 札幌高判）」『刑法判例百選Ⅰ総論（第 3 版）（別冊ジュリスト 111）』（有斐閣、1991 年 4 月）、『刑法判例百選Ⅰ総論（第 4 版）（別冊ジュリスト 142）』（有斐閣、1997 年 4 月）

「社会記録の閲覧（平成元 .12.26 大阪高決）」『少年法判例百選（別冊ジュリスト 147）』（有斐閣、1998 年 6 月）

「電話検証（平成 4.10.15 東京高判）」『刑事訴訟法判例百選（第 7 版）（別冊ジュリスト 148）』（有斐閣、1998 年 8 月）

「いわゆるロス疑惑銃撃事件控訴審判決（平成 10.7.1 東京高判）（最新重要判例評釈 14）」現代刑事法 7 号（1999 年 11 月）

「『犯人』の意義（昭和 24.8.9 最高三小判）」『刑法判例百選Ⅱ各論（第 5 版）（別冊ジュリスト 167）』（有斐閣、2003 年 4 月）

「訴因変更の時機（昭和 51.4.5 福岡高那覇支判）」『刑事訴訟法判例百選（第 8 版）（別冊ジュリスト 174）』（有斐閣、2005 年 3 月）

（4）書評

「川出敏裕著『別件逮捕・勾留の研究』」ジュリスト 1159 号（1999 年 7 月）

（5）雑誌記事・座談会・シンポジウム等

「少年事件における立法動向」三色旗 631 号（2000 年 10 月）

「シンポジウム・国民の司法参加を考える―参審制度を中心として」NBL708 号（2001 年 3 月）

「座談会・裁判員制度導入の是非をめぐって」現代刑事法 32 号（2001 年 12 月）

「座談会・キャリア構築に大学はどう応えるか」三田評論 1047 号（2002 年 6 月）

「法学教育と実務」三色旗 654 号（2002 年 9 月）

「21 世紀の先導者たる法曹の養成〔慶應義塾大学〕」受験新報 53 巻 3 号（2003 年 3 月）

「慶應義塾大学大学院法務研究科（全国法科大学院めぐり・刑事法教育の特色（2））」現代刑事法 62 号（2004 年 6 月）

「座談会・裁判員制度を成功させるために」三田評論 1088 号（2006 年 3 月）